

おかえり

特集

◆放射能から家族を守るため
東京から匹見へ2家族が移住

◆交流から滞在、そして定住へ

- 農家民泊
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業



地域の人たちと一緒に、泥んこになってレンコンを収穫する益田市立道川小学校の児童たち
＝益田市匹見町下道川下地区＝

ひきみとつながる。
UIターン情報誌2012. 11月

～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



ちょこっと匹見を体験したい方は…

◇農家民泊…匹見町には、3軒の農家民泊があります。



みよし
民泊「三四四」

《体験内容》
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、
山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など
■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町道川イ214
Tel/Fax. 0856-58-0020



うつだに
農家民泊「内谷とちの郷」

《体験内容》
わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験
（こんにやく、わさびの醤油漬けなど）、もち
つきなど
■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町石谷口561
Tel/Fax. 0856-56-0589



なごうばら
農家民泊「長尾原のへや」

《体験内容》
農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作
り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、
ようかん、ジャムなど）
■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町澄川イ789
Tel/Fax. 0856-56-0471

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】

匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな
自然を生かした体験をはじめ、「田舎料
理体験」や「ものづくり体験」、「収穫
体験」「歴史・文化体験」などを楽しむ
ことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内
の共同作業やイベント開催などが年々
困難になっています。そこで、地域外
の方にボランティア会員登録をしてい
ただき、軽度の作業を通して、田舎と
都市との交流の場を設けています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に
関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能
な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎
暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》

平成24年11月現在

施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(0)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の方は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。
(詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



益田市では、山陰中央新報社と協力して、ふるさとの情報を定期的にEメールでお届けする「益田市ふるさとメール」の無料サービスを行っています。

ふるさと益田を離れて暮らす人、益田市に関心のある市外の人を対象に、「益田市」に関連する山陰中央新報の記事、益田市からのメッセージやイベント案内など、ふるさとの最新情報をお伝えするメールマガジンです。

申込方法：山陰中央新報ホームページから受け付けています。

<http://www.sanin-chuo.co.jp/modules/tinyd0/index.php?id=77>

問い合わせ先 益田市政策企画課秘書広報室 電話 0856-31-0112

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所地域振興課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0301 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.town.hikimi.shimane.jp/>

放射能から家族を守るため 東京から匹見へ移住

平成23年3月、世界を震撼させた東日本大震災と、深刻化し続ける放射能汚染。家族の健康を第一に考え、震災からまもなく、東京から、ゆかりのある益田市匹見町へ2家族が移住した。

中村愛さん(29)は、子どもを専門に撮影するプロカメラマン。震災前までは、関東を中心に仕事をしていた。

同年4月、家族3人で匹見町へ移住した後は、「縁のできた島根に貢献できれば」と、本業のかたわら、子どもたちにモデルの



写真教室の様子

楽しさを味わってもらおう写真撮影会を開催してきた。

匹見から世界へ発信 教育に写真を！子どもの可能性を探る プロジェクト始まる

子どもの可能性を探る写真教室

同年夏からは、仕事で使っていたデジタル一眼レフカメラを息子のひなた君(7)に渡してみたのがきっかけとなり、写真を教え始めた。現在は週2回、近所の子を含め3人の子どもたちが学んでいる。

教室では、カメラまかせのオートは使わず、F値やISO、シャッター速度といった専門用語と意味を教え、自分たちで色や明るさを決めて撮影させるというから、本格的だ。

匹見を中心に島根県内に出かけて撮影した虫や鳥などの生き物や植物を捉えた写真をインターネット上で公開したところ、「子どもでもこんなに上手に撮れるのか」といった感動の声が寄せられたという。

また操上和美氏や蓮井幹生氏など、日本の著名な写真家が審査員を務めた、15歳までの子ども対象の写真コンテスト「キッズ・フォト・チャレンジ2012」では、当時6歳だったひなた君

に、最多の5賞が授与されたという。

「ピノキオ」の活躍

現在、国内で子どもたちが専門的に写真を学べる教室はほとんどない。そこで中村さんは、子どもにも写真が撮れるということを広げようと、「子ども



中村さんと生徒たち=東京の写真展で。

写真を教える方法はまだ確立していないというが、子どもたちの「ものを見る力」や「考える力」「伝える力」を育てることを目指している。

「保育所や小学校など地域が一体となり、世界に先駆けて写真の教育を探っていくことができれば、匹見は世界からの注目を集めることができるのではないだろうか。そう、中村さんは話している。



(左から)堀田陽宏さん、明欄君、三枝さん、千鳴ちゃん

られたり、わが子のように子どもたちの面倒をみてくれる姿に「感動させられっぱなしで、感謝の思いでいっぱい。世代を越えた技術や知恵の伝承と地域教育はありがたい。親子共々学ばせてもらっている」という。創造意欲をかきたてる大



堀田さん夫妻が手がけた音楽作品

「Uターンした若い人たちと手を取り合ったら何か面白いことができる」と考える三枝さんは、都市部を中心に盛んに行われているマルシェ(主に農産物や加工品を販売する市場)を匹見町でも開きたいとの夢を抱く。



創造意欲をかきたてる

匹見の地で、レゲエの音楽プロジェクトを運営

生まれ育った東京で、レゲエというジャマイカ発祥の音楽を扱うプロジェクト「サニーサイドレコード」を運営してきた堀田陽宏さん(31)。震災直後、放射能汚染の深刻な状況が隠べいされていると知り、国内外の友人らから正確な情報を集め、震災3日後には、当時妊娠中だった妻・三枝さん(33)と長男の明欄君(3)とともに、父親の生家がある匹見町へ移住した。

現在、匹見町を拠点に仕事をしている堀田さん。仕事関係者と直接会える機会が減る中、移住後にCD3枚と、21曲の配信用楽曲を制作した。震災以降は、「反核・反戦といったレゲエに

根ざした価値観を、たくさんの人に伝えるとともに、日々の暮らしを見つめてもらう提言をする機会が増えた」という。デザインナーの三枝さんが、育児の合間をぬってCDジャケットやウェブサイトを手掛ける。

昨年、会社所属のアーティストを益田市と山口県と呼び、音楽イベントも開催。平成24年9月に善正寺で開催された『遠

根ざした価値観を、たくさんの人に伝えるとともに、日々の暮らしを見つめてもらう提言をする機会が増えた」という。デザインナーの三枝さんが、育児の合間をぬってCDジャケットやウェブサイトを手掛ける。

2006年6月24日

知り合いが少ない中でスタートさせた田舎暮らしだが、安全な食を口にしたと始めた野菜作りを、近所の人が指導してく

自然と、安心安全な食、思いやりにあふれ支えあって暮らす地域の人々。そんな匹見町が好きになればなるほど、「多くの人が、欲を言えばクリエイティブな(創造的な才能を持つ、の意)同世代に移住して来てほしいという思いと、とかく自分のことしか考える余裕のない都市住民だけには来てほしくないという思い」のはざままで苦しむ。

昨夏には、千鳴ちゃん(1)が無事誕生し、まもなく匹見町での2度目の冬を迎える。都会育ちに、雪の積もる冬は過酷だ。けれど、「同じ時間を過ごすなら楽しく過ごしたい」と考え、地域の人からスキーや雪遊びなど冬を楽しむ術を教わり、昨年は家族でスキー場へ足を運んだ。

「雪中の暮らしは不自由で気分も減入りますが、その分春が来た時の喜びはひとしお。めっちゃめちゃ四季を感じます」と、4人は目を輝かせる。

匹見マルシェ

匹見町はここ数年、20、30代を中心に移住者が増えて